

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「魔力は性欲で出来ている ～愛とリビドーで目覚める力～」

テーマ：「主人公のことが好きなのに、素直になれない美少女」

キャラクター

50

ストーリー

55

テーマ(設定)

70

文章力

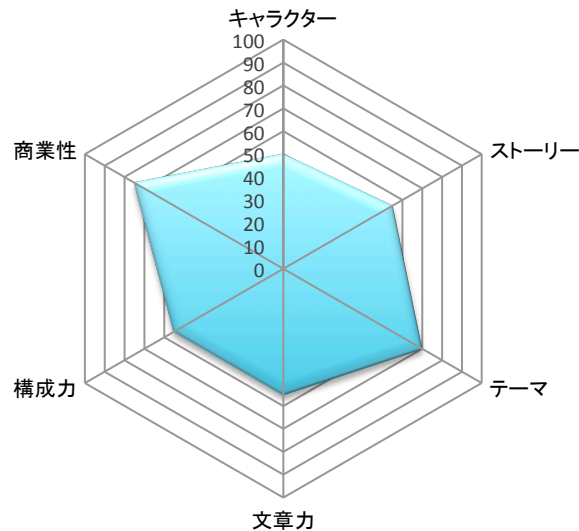
55

構成力

55

商業性

75



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語が都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・浅井ラボのされ電のような硬派な印象かと思いきや、フタをあけてみるとエロゲーであった。今思えばパンティの群れはパンティの群れだったのではないかという錯覚さえ感じてしまう。

・固有名詞を伴う設定を一気に出し過ぎであると思われる。読み手側としては「スビグラムがフェンリル? イレミネートのパンティって何」感はある。ただその一見カッコいい横文字の設定が実質ただのエロパワーというギャップ自体は非常に面白かったもので、単に一気に出し過ぎたことが問題であると思われる。

・長編化推奨作品。この短編では戦闘シーンはエロシーンを正当化させるためのとってつけたものである印象が強いが、エロとバトルでしっかりコメディ感とシリアス感とのメリハリをつけた作品はギャップが効いて面白くなりやすいため、少なくとも「50枚内で規約ギリギリのことをやりました」という若干のネタ感は一気に払拭される。またこの作品の問題点として結局はいちいちやれているだけという他作品との差別化要素に欠けるという側面が見られるが、バトル要素を充実させることで前述の固有名詞的な設定も含めキャラの心情描写がより深まるため、今この短編作品が抱えているほとんどの問題点が解消される。(逆にここまで充実した作品を書いてしまうとエロ要素がいらないのではという問題は発生するが)

合計加点ポイント 0

総得点: 360 / 600

B方式総合得点: 21600 点